

平成25年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会会議録

1 日 時 平成25年9月27日(金)13時30分～15時

2 場 所 花巻新渡戸記念館事務室

3 出席者

(1)委員：木村清且委員(会長)、中島健次委員(会長代理)、
内館勝人委員、内匠睦子委員、松岡信委員

(2)市側：久保田泰輝生涯学習課長、嶽間澤茂新渡戸記念館長、
小原弘道副館長、林秀学芸調査員

(3)欠席委員：伊藤新一委員、小原幸子委員

4 担当者

議長：会長、進行：副館長、記録：学芸調査員

(副館長)

それでは、予定の時刻になりましたので始めさせていただきます。

本日は上半期末そして月末のお忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。
なにぶん会場が狭いもので不便かとは存じますが、ご容赦いただければと思います。

それでは開会の前に本日の会議の成立につきまして申し上げます。

本日欠席の連絡がございましたのが、伊藤委員そして小原委員のお二方でございます。
従いまして過半数以上の出席を賜りましたので花巻新渡戸記念館管理運営規則第7条第2
項の規定によりましてこの会議が成立していることを報告申し上げます。

それでは会議に入る前に平成25年度、人事異動もございましたので改めて職員の紹介
を行いたいと思います。本日、部長の代理で生涯学習課長の久保田課長の出席をいただい
ております。

(久保田課長)

生涯学習課長の久保田でございます。4月からお世話になっております。本来ですと菊
池部長が出席する予定でございましたが都合がございまして私が参りました。どうぞよろ
しくお願いいたします。

(副館長)

館長の嶽間澤、学芸調査員の林は異動ありません。今年もよろしく申し上げます。

そして私でございますが4月より赴任いたしました小原と申します。

それではこれより、平成25年度第1回花巻新渡戸記念館運営協議会を開催いたします。
まず最初に開会にあたりまして当館の嶽間澤館長よりご挨拶を申し上げます。

(館長)

お忙しい中、今日のご出席いただきましてありがとうございます。また、会議室等ございませんので手狭な場所で申し訳ございませんが、これからたくさんのご意見をいただきたいと思っております。

前回2月の運営協議会の際に、次年度への事業への運営委員の意見が反映されるように時期を考えて欲しいとの要望がございました。そのため毎年2月と7月に開催しておりましたが7月をこの9月に変更いたしました。これから10月以降、平成26年度事業を検討することになっておりますので、その前に運営委員の皆さんから様々な意見をいただき、それを参考にしながら新年度の事業方策を練って参りますので、よろしくお願ひしたいと思います。入館者数については5年ぶりに24年度は2万人の入館者を達成することができました。岩手県を挙げてのデスティネーションキャンペーンの取り組みの成果もありましたし、それから賢治さんの様々なイベント、新渡戸稲造博士の生誕150年、そういった年の取り組み等も影響したものと思っております。

今年は賢治さんも新渡戸博士も没後80年ということで賢治さんのほうは大々的に様々な事業が組まれておりますが、当館は特別な大きな事業はございません。今年度4月から、事業計画に基づきまして特別展、特別公演それから移動研修、こういったものを進めさせていただいております。今は特別展2、新渡戸氏と偉人群像 新渡戸英一展を開催しております。今年度の事業を順調に進めておりますし、9月には4月からの入館者が1万人を越えました。ただし、これから冬場にかけて客足が減りますので、今年の2万人達成は難しいかもしれませんが、県内外の皆様や市民の皆様にたくさんおいでいただけるように工夫して参りたいと思っております。

お手元に、10月5日新渡戸教室ということで、昨年度は花巻の子供達に新渡戸家あるいは新渡戸稲造の業績、考え方、人柄について知らせる機会を作りたいと考え中学生対象の教室を開催しましたが、今年度は小学生対象に開催いたします。お手元のチラシは本来カラーのものを市内の小学生880名に配りました。今のところ申し込みが16名と多くありませんが、中学校・小学校の先生がもう少し知ってもらわなければ子供達にも勧められないんじゃないかと思っております。小学校6年生の教科書には1頁分新渡戸稲造を扱ってんです。これは岩手県全部の学校で使用しております。2学期にこの勉強をするということで7月に小学校の校長先生を訪問。8月にはチラシを配って、9月に申し込みを受けていますが、なかなか浸透しません。これからの課題かなと考えております。26年度は教職員のための事業というのも考えていかなければいけないと考えております。それでは今日は、今年度の状況の報告、並びに次年度の事業について、これから様々なご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(副館長)

それでは続きまして当運営協議会の会長であります木村様より一言ご挨拶を頂戴いたし

たいと思います。

(会長)

皆様ご苦労様でございます。運営委員の皆さん、そして久保田課長さん、ありがとうございます。今館長の挨拶の中にもありましたが生誕150年が前年度、没後80年が今年度ということで特色ある運営をしているようです。本日はその報告と皆さんとともに次年度に向けましての館のスムーズな皆さんが魅力を感じる館の運営を進められるように皆さんのご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(副館長)

ありがとうございました。それでは協議に入りたいと思います。

この会の議長は館の運営規則第6条第2項の規定により会長が行うこととなっております。大変恐れ入りますが会長様に会の進行をお願いいたします。

(議長)

それでは協議を進めます。協議事項1の平成24年度事業及び利用状況等の報告をお願いいたします。

(副館長)

それでは平成24年度事業及び利用状況等の報告をいたします。

資料の1、2頁をご覧ください。昨年度の事業につきましては今年2月に開かれまして運営協議会において報告済みでございますので、詳細については申し上げます。

その中でも、各特別展の催しものは準備期間を除いて通年開催しております。また24年度は新渡戸稲造生誕150年ということで当館におきましても9月1日に「生誕150年記念事業」を開催いたしました。内容といたしまして、胸像を台湾の実業家の方から岩手県に2座寄贈をいただきました。1体は新渡戸基金さんの方に、1体は当館に寄贈いただきましたので、当館といたしましては台座を製作しホールに設置いたしました。ほかにも記念のDVDを制作しました。また、新渡戸稲造研究の第一人者と言えます大阪市立大学の名誉教授の佐藤全弘先生をお迎えしてトークショーを行いました。

他にも恒例ですが、6月に移動研修、希望団体を募集してのセミナーなども数回開催しております。

続きまして利用状況でございます。(資料説明)

続きまして予算・決算の状況でございます。(資料説明)

この中で、通常と違っているのは稲造生誕150年ということで昨年8月30日に盛岡に高円宮妃殿下をお迎えして盛大に記念式典が開催されております。館長が出席しましたが、その事業に花巻市として補助金を支出しております。

以上、簡単ではございますが平成24年度の事業報告とさせていただきます。

(議長)

ありがとうございます。1頁の平成24年度事業及び利用状況の報告ということで、生誕150年事業、各種展示事業についての説明をいただきました。運営委員の皆さんのご意見をいただきたいと思いますが、どなたかご意見ありませんか。

私から、2頁目の3.利用状況の中、実数と目標が提示してありますがそれはずっと2万5千となっているのですね。なにかの数値があつてのこの目標人数なのでしょうか。

(副館長)

目標は月2千人ほどの来館数が望ましい、という理想的な数字を掲載させていただきました。一番多い時で平成8年に、賢治祭の影響もあつてか3万人の来館者がございました。開館当初も3万近くの来館者数となっておりますので、これまでの実績を踏まえて目標値として掲げております。震災の影響やPRが足りない等の理由が考えられますが、今後目標に近づけるように展示を工夫とか、もっとPRをする必要があると思っております。

(議長)

資料の各種事業にある人数は、この特別展にいらした方の人数ですか。

(副館長)

開催期間中の来館者数でございます。

(館長)

開催期間中の入館数であつて、特別展だけを見に来た人数ではありません。

(松岡委員)

去年まで花巻地区の参加者、それから県外とか市外という分類をしていた。17%の花巻市民の参加率だった。この建物は花巻市で建てたものだ。花巻の文化を高めるために建てたはずだ。ならば花巻市民の参加率が17%でいいのか。それを打開する方法を考えなければならない。剣道、柔道の師範をしている人物が新渡戸氏からたくさん出ている。そういうのに関連づけていけば、子供や父兄も関心が出てくるだろう。またアンケートではここが良い、などと言っているが誰が悪いと書くだろうか。外交辞令ということもある。だから、こういうアンケートは半分に見たほうが良いと思っている。

それから、新渡戸家の集大成したのが新渡戸稲造だと書いているが、集大成とは何かということが明らかになっているのか。剣道師範や勘定奉行したとか、兵学の先生をしてきた歴代の新渡戸家について、その集大成が稲造だというのが何が伝わってきたというのか。

新渡戸稲造以前に維民という人がいた。腹切る覚悟で花巻城の縮小の危機を救った人だ。この人の息子の伝(つとう)は、盛岡の勘定奉行になっている。自分は死んでもいいからと、命を賭して危機を乗り越えてやったのが、それが維民・伝親子であり、また維民の教えを学んだ松岡円平であった。なぜそれができたのかというと、江戸時代の思想を考えてみる必要がある。つまり朱子学と陽明学である。

朱子学とは天と地があるように上と下がある。それが身分にも言えることなので幕府に

は逆らってはならない。こういう上下関係がはっきりしている。武士は民の上にある。一方陽明学においては人は皆平等なのだという教えである。職業的に階級の差はあっても、人間の心には良知がありそこには身分がない、という考えだ。だからキリスト教が入ってきたときに新渡戸さんも佐藤昌介も入信している。そういう受け付けられる考えがあった。自分が信じたことがあれば一步も退かない。陽明学においては、藩主であろうが首になってもいいからご意見申し上げるという考え方なのだ。だから新渡戸さんは自分が切腹になるかもしれないが、そういう陽明学を実践していた。これが松岡円平なんかも弟子だ。伝、円平、大田代、そういう人たちが佐藤昌介それから新渡戸稲造と続いていく。維民の精神が稲造に集約されているのだ。

(館長)

今のお話について解説させてください。

集大成という言葉はいろんな所に出てきますけれども、十次郎、維民、伝の物の考え方だとか行動の仕方が代々、例えば江戸の要役をやったり、大阪に手をかけて仕事をしています。伝も青森の木材を売って船を所有するまでになった。全国を漫遊して岩倉具視などとも交遊があった。幅広い人材と活躍している、そういった行動力とか知的好奇心とかあるいは文筆活動であるとかこういったものが代々新渡戸家の中に流れているのではないかと。そういったことを開花させたのが新渡戸稲造じゃないかということです。

それから花巻市民ですが、伝とか十次郎もあの時代に江戸とか京都で活躍しているので。盛岡藩のエリートとは新渡戸十次郎じゃないかと私は思っております。10月15日の広報に十次郎について私の知っている範囲のことで書かせていただきました。いろいろ花巻市民の方に、新渡戸稲造の先祖である十次郎とか、伝とか維民がどういった活躍をしていたかということを知らしめる機会を作っていきたい。

小中学校の生徒に対しても、ここは新渡戸稲造とか新渡戸家についてあるいは佐藤昌介といった岩手の先人を学べるチャンスがあるんだということを訴えていきたいと思っております。なかなか火がつかませんが、これから繰り返し繰り返し、生きていく中でヒントになることが学べるんだということを学校訪問などを通して教職員あてのパンフレットも全員に配布しました。そういったことを働きかけしながらなんとか花巻市民に広く周知していきたいと考えています。

(議長)

もともとこの館は稲造ではなく、新渡戸家の顕彰を目的として建てられた建物ですので、そこは最初からはっきりしていると思います。それではご意見がなければ、松岡委員、館長の話の中から今後の館の運営に役立てていけるとと思います。

(館長)

このことを、去年作ったDVDに入れておりますので、後ほど是非御覧下さい。

(松岡委員)

この新渡戸記念館を建てたのは、新渡戸稲造という人物を生んだ誇りとして、そしてその先祖の地がここにあるのだ、ということで建てたのではないか。新渡戸稲造を調べて、何が稲造に集約されたのか、これを調べていかなければならない。そのための建物、研究機関だ。そしてそのことによって花巻の維民の精神が花巻全体に広がっていったのだ。陽明学でも話したが、武士も庶民もない、人間は自分の良心がある、平等だ階級差はあれども心はみんな同じだという陽明学、それを新渡戸維民は実践していく。みんな侍といえは偉いと思ってしまうが、剣道の師範だったとか、そんなことを言ったって何にもならない。やはり維民の背後にある陽明学の精神というのを伝えてこそ初めて、新渡戸稲造みたいな世界の賢人が生まれたのだ、ということを押さえなくてはいけない。

(館長)

それについても DVD に入れたので後ほど御覧下さい。

(議長)

それでは進めます。

協議事項 2 の平成 25 年度事業について、副館長説明をお願いします。

(副館長)

説明いたします。(資料の説明)

この中で、今年度は稲造没後 80 年という年です。これに関連して、及川巖色紙展を開催いたしております。当時矢沢中学校にお勤めの時に、稲造の思想を生徒に教えるために自らしたため、その言葉を伝えた色紙を展示いたしました。この時に作成した日めくりカレンダーが大変人気がございます。

現在は新渡戸英一展を開催しています。花巻新渡戸を知る上で貴重な資料を提供していただいた英一家の資料を紹介しています。12月からは共同企画展を予定しています。新渡戸維民と深い関わりのあった松岡円平をとりあげます。2月に恒例となっている雛人形展を開催する予定です。

教育普及事業について説明いたします。(資料の説明)

またここに書いていない事柄ですが、当館の池を見ていただくと分かるとおり、鯉の寄贈をエパークリーン社から 30 匹受けました。当館の貴重な観光資産となっております。

(議長)

ありがとうございます。これまで説明いただいた中で、委員の皆さんからご意見があればお願いします。

(松岡委員)

今迄の説明を聞いていると進歩がない。冬には人が来ないしどうしたらいいでしょう、運営委員が決めなければいけない。それを実践するのがあなた達だ。運営委員は黙ってき

いて、はいわかりましたでは駄目なのだ。やはり、どうすれば打開できるかを考えるのが運営委員だ。冬の誰も来ない時期に松岡円平展を設定したというので頭にきているが、こんな所に位置づける人物ではないと思っている。

(内館委員)

他の方の意見もありますので、お願いします。

(内匠委員)

5頁に戻りますが、10代の方がすごく親切にされたと書いてあるが、逆に60代の方は犬を連れて来たときにいささか不愉快だったとの意見が書かれている。動物を飼っている方の中には、マナーが悪い人もいる。こういうことがあった時に、どのように対処したらいいのか考えるべきじゃないか。

(館長)

お掃除をしてくれる方が居る。あちこちに犬の糞をそのままにしていく方がいて、お願いしたらしい。このアンケートに書かれた方は感情的に捉えてしまって、苦情をいただいた旨の報告は受けている。きつく言った訳ではないし、犬の散歩にいらしていただいても構わない。

(副館長)

注意の受け取り方に行き違いがあったようだ。非常に丁寧にやっていただいている。

(館長)

新渡戸稲造の生涯を紹介する建物ですから、教えを実践しなくてはいけないと思っている。

(内匠委員)

先ほど学校の生徒にパンフレットを配っているという話だったが、学童クラブにも配布してはどうか。とても熱心に伝えてくれる良い場所だ。小学校の先生は時間とノルマに追われて忙しいので、子供達にしっかり伝える時間もとれないのではないか。

(館長)

良い意見をいただきました。今後の参考にします。

(松岡委員)

議長。館長から、冬はどうしたら良いか分からない、先生達も進歩しないとお話があったが、それに対して運営委員はどう取り組むかを検討しなくてはいけない。

(内匠委員)

今言ったような取り組みをする中で少しずつ浸透していくのではないか。

(内館委員)

違う視点から申し上げます、以前に新渡戸家は時代背景も違うしやったことも今の時代とは違う時代に色んなことをやっているということで、名前が難しいのでよみがなをふっ

て欲しいとお願いしたら、いろんな資料にふりがなをふっていただいで分かりやすくなった。さらに、小学校や中学校に向けた資料がさらにあれば、さらに子供むけに資料を作っていたらと思う。新渡戸家に関心を持ってもらって、ここに足を運んでもらうという流れがあれば。名前に限らず、読み方にふりがなをふっていただきたい。もっとも注意していただきたいのは名前などの校正をしっかりとしていただきたい。

(館長)

正誤表を入れて対応しています。今後は校正をさらに留意します。展示の各コーナーには小中学校向けの立て看板で案内があります。チラシでも案内を出したとおり、これから皆さんに足を運んでもらえればと思います。

(中島委員)

入館目標は2万5千人から2万人に変更ということで良いのか。

(副館長)

これまでの目標値と実数に乖離があったので、現実可能な数字を提示しました。

(中島委員)

目標にとらわれてしまうよりは、ここは観光施設ではないのだから良いと思う。

市内他館でも、冬は来館者が少ない。観光客が冬に少ないことに起因していることを併せて考える必要があると思う。魅力のある展示を、シーズン設定を含めて考えるべきだ。

花巻市民の客足が少ないのは、この館に限ったことではないので地道な活動が必要である。自分に関連、つながり関わりのあることに関心がいくので、新渡戸家なり偉人が身近に居るということを周知する必要がある。館自体の持っている使命はもちろんだが、一般市民や観光客が魅力を感じる企画展示が必要ではないか。

(松岡委員)

中島さんは、花巻市民に関心をもってもらうためにはどうすれば良いかということを考えていただきたい。館長が言ったように、本を売るにしても関心がないから売れないと、それを打開するためにどうすればいいかを運営委員が考えなければいけない。そして花巻の文化を高めるためにはこういうことから解決しなければならない。

(中島委員)

おっしゃるとおり。幸か不幸か宮沢賢治という人物とずっと一緒に来たわけだが、そういう意味で花巻を作った偉人に光があたらないというか。先人という部分で、有名無名に関わらず地元との繋がりが分からないと地元の人に来づらと思う。

(館長)

年間の入館者数で言えば、昨年先の先人記念館は1万6千人、原敬記念館は8千人、後藤新平記念館は4千人だった。賢治記念館等の観光の足があるとは思いますが、この館は割と健闘していると言える。この後、課長からお話いただきたいが新しい図書館ができて、その

中に花巻の先人を紹介するコーナーができるやに聞いている。

(久保田課長)

単純に先人をリストアップしただけで、191名いらっしゃる。まだまだ知られていない方もいらっしゃるので、そういった人物をいかにして市民に紹介するかが私どもの使命だと考えている。爆発的に観光客を呼ぶというのはおこがましいので、市民に知らしめることが第一だと思っている。新渡戸でも松岡さんなど出て来ますし、そういったことで紹介していければと思っている。

(議長)

松岡委員から様々ご指摘があったが、こういったことは総合的に対処することだ。商工会議所の先人顕彰事業も進んでいる。花巻に今ある景観や資料をどう生かすか。ですから、あんにここで私どもがこの場所で意見したところで、市民には浸透しない。剣道だ柔道だと言うならば専門委員会を作りながらしなければいけない。この会は年に2回、方向を見ながらの館の評価をする場ですから方向付けも各団体に働きかけていく、という形で良いのではないかと考える。

次に進みます。

(副館長)

最後ですが、来年度予算に組み込むため、忌憚の無い意見をいただければと思います。

(内館委員)

新渡戸の精神を生かして活躍している地元の人物を紹介できれば良いのではないかと。及川先生の教え子の中で、新渡戸の精神が生きている生活の様子を紹介できれば。

(松岡委員)

花巻東の佐々木監督にも花巻魂が入っていると思っている。花巻魂とは新渡戸維民精神だ。

(館長)

少し、難しそう。除幕式に招待したく、卒業生を探したが見つからなかった。何かのヒントにして活用したいと思う。

(議長)

それでは、これにて閉会したいと思います。